

## 医学館年表作成をめざして—基礎資料解説—

町 泉寿郎

数年、医学館の研究に従事し、現在、医学館年表を作成中である。作業経過報告を兼ねて、年表の基礎資料の一部について、ほぼ時代順に掲げ、その概要と所在を報告する。

### 医学館を知るための基本的な資料

- 1、多紀元孝撰『医学経営記』（矢数道明氏—明和二年（一七六五）開校時の理念・施設・学課・組織記録。3と合綴一冊。
- 2、『躋寿館講次』（多紀文庫）—百日教育以前の安永三年（一七七四）の講義時間割。儒書を併講。木版一枚刷り。
- 3、『百日中諸生教育記』（矢数道明氏）—天明中、百日教育時の学課・規約の記録。1とともに多紀元堅の重鈔にかかる。
- 4、多紀元堅著『時還読我書』（天保十年成）—百日教育時代の記事を取めるが、一次資料による検討を要する。
- 5、大田錦城撰『春草堂文集』（尊経閣文庫、尊経閣叢刊）—天明期の多紀家・亀田鵬斎・吉田篁らとの交流。
- 6、『憲教類典』四一〇「医学館」（国立公文書館、近藤正斎旧蔵）—寛政三年（一七九二）冬・官立化以前の公文書の集成。『好書故事』の缺を補う。
- 7、『よしの冊子』（国会図書館、『日本医史学雑誌』四十四、四十五、一・三参照）—寛政の改革下における人物の風

聞を多く取め、医官の動向を知る上で史料価値がある。

- 8、『躋寿館規則』（広島大学）—寛政三年（一七九二）の時間割・規約・寄宿者名。写本。
- 9、多紀元應著『医家初訓』（寛政四年刊、天保四年多紀元堅印）—官立化に当たって作られた入学者向けの医官心得。和文体。
- 10、『医学館要秘録』（石黒忠恵旧蔵・慶応大医学情報センター）、『医史料』『医談』所収—官立化以後の文書の集成。上は施設の事務・管理、下は学事の記録。
- 11、『医学館諸入用小訳帳』（呉秀三旧蔵・京大富士川文庫）—寛政四年（一七九二）の諸雑費記録。以後の運営費の基本。
- 12、『寛政甲寅考試問答二件調書ほか』（『日本医史学雑誌』四十八—二参照）—寛政六年（一七九四）の試験記録。
- 13、『藍溪先生葉室規條（規約十五道）』（岡田昌春文庫、『医談』四十九所収）—寛政中、多紀元簡撰・大田錦城校訂にかかる漢文体の医師の心得。
- 14、多紀元簡『寛政庚申御用留記』（慶応富士川文庫）—寛政十二年の元簡から幕府への呈出書類。人事掌握の様子を知る。
- 15、『玉池藍溪桂山先生門人帳』（武田杏雨書屋、『漢方の臨床』四十六—三所収）—文化七年以前の多紀本家の門人帳。
- 16、多紀元簡撰『櫟蔭草堂文集』（多紀文庫、京大富士川文庫、岡田昌春文庫）—序・跋に富む。元簡の事蹟・学籍・交

友の歩みを知る好資料。伝本稀。

17、『医式大概』（無窮会図書館）—医官の制度集。多紀元簡没後、文化と文政頃の状況を反映。

18、喜多村直寛撰『躋寿嘉話録』（東京大学総合図書館、浅田宗伯旧蔵）—文政三年（一八二〇）入学以来の見聞を記した漢文体の逸話集。

19、多紀元胤撰『柳汙文稿』（国会図書館、岡田昌春文庫ほか）—序・跋に富む。元胤の事蹟・学籍・交友を知る好資料。

20、『存誠葉室弟子記』（矢数道明氏・光丘文庫、『漢方の臨床』『日本医史学雑誌』所収）—矢の倉多紀分家（元堅・元琰）の門人帳。文化十二年（一八一五）より幕末まで。

21、『御目見医師出席留』（安田文庫旧蔵・佚、『日本書誌学之研究』参照）—天保十三年（一八四二）以降の陪臣・町医のための別会出席簿。

22、『躋寿館諸事控』（京大富士川文庫）—天保十三年陪臣・町医出席許可時の江馬春齡による教員名・心得の記録。

23、『医学館方案』（武田杏雨書屋）—天保十四年（一八四三）来診者十四人分人のカルテ。施療実態を知りうる資料。

24、『講書年表』（慶応富士川文庫）—天保十四年より安政四年（一八五七）までの別会講義・講師の年表。

25、『中風閉脱弁・傷寒方案』（国立公文書館）—弘化三年（一八四六）の医案会に諸生が提出した答案。元堅・宝素・直寛ら教諭の評を巻頭に付す。

26、『海保漁村年譜』（国会図書館、一九三八刊）—師の多紀元

胤と大田錦城や、親交のあった多紀一族の事蹟を含む。

27、岡田昌春撰『躋寿館遺事』（『継興医報』所収）—今村了庵が帝大文科教授から尋ねられた際に岡田が執筆したか。

28、『手伝介申合帳』（岡田昌春文庫）—嘉永六年（一八五三）に確認された手伝介の勤務規約および先例。

29、添田文春『御用廻状留』（武田杏雨書屋、『日本医史学雑誌』二二八八参照）—嘉永六、安政二〜四、文久一〜明治二・四の公文書の控。時間割・講師含む。

30、小島春澳著『日新録』（慶応富士川文庫）—安政二〜四年（一八五五〜五七）、在寮中の漢文体の日記。

31、多紀元佑『医心方掌記』（武田杏雨書屋）—安政四年（一八五七）前後の日記。日々、医学館役員との応接あり。

32、『医学館帳』（国立公文書館）—安政六年（一八五九）以降の公文書の集成。前例としてそれ以前の文書も含む。

33、多紀元佑『医庠諸生局学規』（文久三年刊）—海保漁村の修訂を経て成文、漢字カタカナ交じり。9に代わるもの。

34、『多紀氏系譜』（『医談』所収、原本佚）—多紀氏本家歴代の官歴に関する最も詳細かつ信すべき資料。ただし誤脱多し。

35、『医学館薬品会物品録』『躋寿館薬品会目録』—薬品会出品目録。天明元、文政元・三、天保二・四、文久二・三年存。

36、岡田昌春・高嶋祐啓撰『躋寿館医籍備考』（一八七六・七七刊）—明治初めに残存していた蔵書一三九〇部の解題。浅田宗伯の修訂を経て成稿。

（平成十五年一月例会）